

モンゴル語の存在文と所有文の 否定について*

橋本 邦彦[†]

キーワード： 存在文、所有文、否定辞、既知性、未知性

1 はじめに

モンゴル語の存在文と所有文は同じ形式で表される。

(1) 不変化詞 *bij* “existing, there is/are”:

a. *Ulaanbaatar-t*¹ *olon* *xüins-n-ij* *zax* *bij*.
Ulaanbaatar-D/L many grocery-n-G market:N existing

“There are many grocery markets in Ulaanbaatar.” <AE>

b. *Baatar-t* *olon* *xurдан mor*² *bij*.

Baatar-D/L many fast horse:N existing

“Baatar owns many fast horses.” <K&Ts: 851>

(2) 存在動詞 *baj-* “to exist, to be”:

a. *Angi-d* *sambar,* *šüügee,* *širee,* *sandal baj-na*.
classroom-D/L blackboard:N closet:N desk:N chair:N be-PRE

“There are a blackboard, a closet, desks and chairs in the classroom.”

*本稿は橋本(2010)の姉妹編である。橋本(2010)が存在文と所有文の肯定形を扱ったのに対し、本稿ではその否定形が対象となっている。

[†]室蘭工業大学大学院工学研究科ひと文化系領域

¹ グロスの省略記号は、本稿末尾に付すので、参照のこと。

² ‘は軟音符 *ь* と硬音符 *ъ* の表記である。

<U: 22>

- b. *Nadad žaaxan yavuul-a-x yum baj-na.*
 1SG:D/L a little send-EP-NPS thing:N be-PRE
 “I have something to send.” <HA: 98>

(3) 所有接尾辞-*taj*^[3] 3 :

- a. *Manaj bair neg tom zočnyj öröö, gurban untulgiyn*
 1PL:G flat:N one big living room:Ø three bedroom
öröö-tej.
 -POS
 “There are a big living room and three bedrooms in our flat.”
 <S&B: 35>

- b. *Bi guč-aad tögrög-tej.*
 1SG:N 30-about tugrig[monetary unit]-POS
 “I have about 30 tugriqs.” <L: 157>

(1)–(3)の各 a は存在文、各 b は所有文である。存在文も所有文も文型は同じで、次の 2 つにまとめることができる。

- (4) a. [Dative-Locative NP: Location of Existence/Possessor]⁴ + [Nominative NP: Entity/Possessee] + *bij/baj-*
 b. [Nominative NP: Location of Existence/Possessor] + [Noun Stem: Entity/Possessee]-*taj*^[3]

橋本(2010: 123)は、存在文と所有文を意味の側面から考察し、プロトタイプ性に関し *bij*、*baj*、*-taj*^[3]は対称的な連続体を形成すると述べている。

³ 右肩の数字は母音調和の規則に従って現れる交替形の数を表す : i.e. *-taj~tej-toj*

⁴ 与位格形 NP の他に、NP+後置詞、場所副詞でもよい。

(5) 存在文の連続体(The Continuum of Existential Sentences)

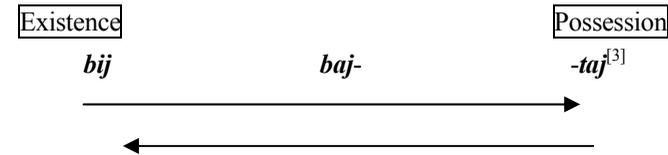


(6) 所有文の連続体(The Continuum of Possessive Sentences)



(5)と(6)から、3つの形式間には、次のような傾斜のあることがわかる。

(7) 存在文と所有文の傾斜(The Cline between Existential and Possessive Sentences)



(7)によれば、***bij*** がプロトタイプの存在文を、***-taj***^[3]がプロトタイプの所有文を表すのに比べ、***baj-***はどちらの文でも中間的、過渡的な位置を占めている。

では、存在文と所有文を否定する場合、どのような事実が浮かび上がってくるのだろうか。モンゴル語には存在文、所有文の否定を表す形式として、3つの不変化詞と1つの動詞、1つの接尾辞型否定辞がある。

(8) 存在文・所有文の否定形式(The Negative Forms of Existential Sentences and Possessive Sentences)

- a. 不変化詞(Particles): ***alga, biš, ügüj***
- b. 否定動詞(Negative verb): ***baj-x-güj***
- c. 接尾辞型否定辞(Negative suffix): ***-güj***

従来、(8a-c)の否定形式の意味は、次のように説明されてきた。

(9) a. *alga*:

- 1) 何かの「不在」が確認の結果、話し手に初めてわかった場合；
一時的に「不在」の場合に用いられる。

<岡田 1989: 23, 小沢 1994: 16B>

- 2) *baj-na* の否定形に対応する。<岡田 1989: 23>

- 3) 非存在(non-existence)、不在(non-presence)の意味を持つ。

<Street 1997: 163, Yu 1991: 115>

b. *ügüj*:

- 1) 「不在、欠如、欠席」などの存在の否定と、「持たないこと、ないこと」などの所有の否定を表す。

<小沢 1994: 482B, Luvsandendeva 2001(Tom III): 388B>

- 2) *bij* の否定形に対応する。<Tsevel 1966: 613>

c. *baj-x-güj*:

- 1) 何かの「不在」が話し手にとって既知の事柄であるか、何かが
元々「不在」である場合に用いられる。<岡田 1989: 23>

- 2) *bij* の否定形に対応する。<岡田 1989: 23, Yu 1991: 117-118>

d. *-güj*:

- 1) 名詞語幹に付いて、その存在を表す接尾辞-*taj*^[3]の否定形に対応する。

- 2) *-taj*^[3]は所有も表すので、所有の否定形にも対応する。

e. *biš*:

コピュラの否定形で、当該の属性や対象が否定され、対立するものが含意される。<Poppe 1951: 95, Poppe 1970: 86, Luvsandendeva 2001(Tom I): 249B, Tsevel 1966: 85B, Street 1997: 192, Yu 1991: 123, 126>

(9a)と(9c)から、*alga* と *baj-x-güj* は専ら存在の否定を表すのに対し、(9b)と(9d)から、*ügüj* 及びそれに起源を持つ-*güj* は存在だけでなく所有の否定も表す。

存在否定の *alga* と *baj-x-güj* を区別するのは、否定される対象が話し手にとって未知事項であるか既知事項であるかという点である。

(10) A: *Bagš-aa tand ene nom baj-na uu?*
 teacher-REF 2SG:D/L this book:N be-PRE Q
 “Teacher, do you have this book?”

B1: *Baj-x-güj.*
 be-NPS-NEG
 “(I) don’t have (it).”

B2: *Alga (baj-na).*
 NEG be-PRE
 “(I) don’t have (it).”
 <Yu 1991: 117 – 118>

Yu(1991)によれば、「この本」の非存在か存在が問いの前にすでに話し手に知られている場合、(10B1)の *baj-x-güj* で答えるのに対し、問いの後で知られる場合、(10B2)の *alga* で答えることができる。

この説明と関連して、(9a)-2)から *alga* は *baj-na* の否定形、(9b)-2)、(9c)-2)から *ügüj* と *baj-x-güj* は *bij* の否定形とみなされる。また、(9d)から *-güj* は *-taj*³⁾に対応する否定形である。

(9e)の *biš* は他の否定形と違い、コンピュータの否定形として「これは X ではなく Y である」を含意すると考えられている。

(11) *Ene minij nom biš.*
 this:N 1SG:G book:Ø NEG
 “This is not my book [but someone else’s].” <Street 1997: 161>

この説明に従うなら、*biš* は存在否定にも所有否定にも関与しないことになるが、果たしてそうだろうか。従来の研究では、存在否定と所有否定を網羅的には扱っていない。原則として同じ形式を使うのだが、両者を分ける要因はあるのか。あるとしたら、その正体は何なのか。さらに、既知性／未知性という含意事項、肯定形式と否定形式の交替の妥当性も十分に吟味されてきたとは言い難い。本論文では、存在否定と所有否定の双方を、主に意味の観点から考察し、上記で挙げた問題点を解明していく。

第 2 節では *alga* を、第 3 節では *ügüj* を、第 4 節では *baj-x-güj* を、第 5 節では名詞語幹+*-güj* を、第 6 節では *biš* を採り上げる。第 7 節の結論で、5 つの否定形式の役割分担のあり様を、機能の連続性という概念で提示する。

2 *alga* (алга)

alga は典型的な存在否定形式と考えられているが、次の 2 つの文型を構成する。

- (12) a. [Dative-Locative NP/NP+Postposition: Location of Existence] + [Nominative NP: Entity] + *alga*
 b. [Nominative NP: Entity] + [Dative-Locative NP/NP+Postposition: Location of Existence] + *alga*

(12a)の例から見ていく。

- (13) *Ene xoyor uul-iyñ xoorond ajl alga.*
 this+ two+ mountain-G between ail [group of tents] NEG
 “There aren’t any *ails* between these two mountains.” <K&Ts: 289>

- (14) *Zaluu uran büteel-čd-ijg demž-i-x zorilg-oor tednijg*
 young composer-PL-ACC support-EP-NPS purpose-INS 3PL:ACC
ur'-san. Tegeed č manajd önödör televiz-ijn
 invite-PF having done that even 1PL:D/L today television-G
od gež alga.
 star:N QUT NEG

“(We) invited the young composers in order to support them. Even if (we) do that, we have nobody called a TV star now.” <ZM: 2003.9.16.>

(13)は後置詞 NP「この 2 つの山の間に」が存在の場所を提示した後、そこでの「アイル」の不在を述べている。(14)は、1 人称複数与位格形「私た

ちのところに」という存在の場所に「テレビスター」が不在であることを語っている。

与位格形 NP が存在の場所ではなく、存在の時間を示す場合がある。

- (15) *Odooxon-d-oo tanaar xel-üül-e-x yum alga*
 at present-D/L-REF 2SG:INS say-CST-EP-NPS thing:N NEG
šiv dee.
 likely CNF
 “At present there appears to be nothing (we) have you say.”
 <塩谷&プレブジャブ 2001: 135>

(15)では発話時点を含む一定の時間幅という場に「あなたに言ってもらうこと」の存在しない事実が表されている。

(9a)の *alga* の説明で、「何かの『不在』が確認の結果、話し手に初めてわかった場合」という話し手にとっての非存在の未知性は、(13)、(15)には適用できるが、(14)には当てはまらない。なぜなら、本来事務所にいるべき「テレビスター」の不在は、話し手にとって既知の事柄だからである。次に、(12b)の例を観察しよう。

- (16) *Luvsan ge-deg xiin end alga.*
 Luvsan:Ø say-HBT person:N here NEG
 “There isn’t a person called Luvsan here.” <AE>

- (17) *Inžener öröö-n-d-öö alga. Xuvcas n’ ölgüür-t*
 engineer:N room-n-D/L-REF NEG clothes:N 3PRC hanger-D/L
alga. Inžener gadagšaa gar-č baj-g-aa yum
 NEG engineer:N outside go out-IC be-EP-IMPF ASR
baj-na.
 be-PRE
 “The engineer isn’t in his room. His clothes aren’t on the hanger. The engineer probably is out.” <AE>

(16)と(17)は、存在者/存在物の「ロブサンという人」、「技師」、「服」が、各々いる/あるべき場所に存在していない状況を記述している。この「元々いる/あるべき場所にない」という含意は、(9a)の「確認後の不在の判明」や「一時的不在」を包み込む性質のものと考えられる。

存在の場所が明示されない例もある。

(18) *Övčtej gež gurvan xün alga.*
 sick QUT three+ person:N NEG
 “Three persons are absent because of sickness.” <CD: 19>

(19) *Piiü, yostoj xereg alga aa!*
 ugh should thing:N NEG INTERJ
 “Ugh, there should not be such a thing!” <K&Ts: 355>

(18)と(19)での存在の場所は、発話時と直結した「今、ここ(right now, here)」であろう。両文とも確かに「いる/あるべき人物の存在が予想されるのに実際には存在しない」という含意を持つ。この事実は、過程を示す補助動詞 *bol*-“to become”が後続する文によって確認することができる。

(20) *Minij nom alga bol-čix-žee.*
 1SG:G book:N NEG become-CMP-PPST
 “My book has been lost.” <K&Ts: 198>

(20)は、「元々あった本が今存在しない」と解釈できる。

(9a)-2)に記したように、肯定形の *baj-na* が否定形の *alga* に交替する事実を示す例がある。

(21) A: *Angi-d olon oyuuatan baj-na ui?*
 classroom-D/L many student:N be-PRE Q
 “Are there many students in the classroom?”

B: *Olon bajtugaj ganc č alga.*
 many let alone only one even NEG
 “There isn’t a single student (there), let alone many.” <AE>

(22) A: *Dulmaa tend baj-na uu, alga uu?*
 Dulmaa:N there be-PRE Q NEG Q
 “Is Dulmaa there or not?”

B: *Dulmaa tend alga.*
 Dulmaa:N there NEG
 “Dulmaa isn’t there.” <AE>

(21A)は場所句を文頭に置く(12a)タイプの存在文であるが、*baj-na* を用いて「大勢の学生」の存在を問うている。(21B)はそれに対する応答であるが、存在を全否定するのに、否定呼応項目 *ganc č* 「全く～(ない)」を前置させた *alga* が現れている。

(22A)は場所句が後置される(12b)タイプの存在文であり、選択疑問の形で、存在を肯定する *baj-na* と存在を否定する *alga* が並置されている。(22B)の応答は、否定の *alga* を選んでいる。

alga は従来の研究では、典型的な存在否定語として説明されてきたが、若干数ながら明らかに所有を表す場合が見出せる。

(23) *Nadad möngö alga.*
 1SG:D/L money:N NEG
 “I have no money.” <K&Ts: 332>

(23)では1人称単数与位格形代名詞が所有者を、主格形 NP「お金」が所有物を示している。

所有文でも *baj-na* と *alga* が交替する。

(24) A: *Tand mongol orn-ij gazr-ijn zurag baj-na uu?*
 2SG:D/L Mongol country-G land-G picture:N be-PRE Q

“Do you have a map of the Mongolian country?”

B: *Odoo alga, ger-t baj-ž magadgüj.*
now NEG house-D/L be-IC perhaps

“I don’t have any now, but (I) may have (it) at home.” <AE>

(24A)では *baj-na* の後に疑問詞を付して「地図」の有無を尋ねている。それに対して(24B)では、*alga* を用いて所有の全面的否定を表した上で、*baj-*で「家」における所有の可能性について言及している。

橋本(2010: 124)で、存在文の存在場所が専ら[-animate]NP であるのに対し、*bij* 及び *baj-*の所有者は[+human]に限る事実を指摘している。このことは、*alga* 型の存在文と所有文にもそのまま適用できると考えられる。⁵

3 *ügüj* (үгүй)

ügüj については、(9b)-1)で見るように、存在の否定と所有の否定を表すと説明されている。*ügüj* は(25)のような文型をもつ。

(25) [Dative-Locative NP/Deictic Adverb/ NP-Postposition: Location of Existence/Possessor] + [Nominative NP: Entity/Possessee] + *ügüj*

alga のように与位格形 NP と主格形 NP の順序が入れ替わる例が手元がないので、言及することはできない。

(26) *End büten sajn ödör xij-x yum barag ügüj.*
here Sunday:Ø do-NPS thing:N almost NEG
“There are few things to do on Sunday here.” <CD: 79>

(27) *Öčigdr-ijn cuglaan deer ter ügüj baj-v.*
yesterday-G public gathering:Ø at 3SG:N NEG be-PST
“He wasn’t at yesterday’s gathering.” <K&Ts: 331>

⁵ (14)は存在場所が一見 1 人称複数形 *manajd* と[+human]であるが、これは文脈から「私たちの事務所」と読み取れるので、意味的には[-animate]である。

(26)では直示的な場所の副詞「ここに」が存在の場所を、主格形 NP「日曜日にすること」が存在物を表す。(27)では場所を示す後置詞 *deer* に導かれた「昨日の集会」が存在の場所を、3 人称主格形 NP「彼が」が存在者を示す。

存在の場所は空間に限定されず、一定の幅のある時間(28)や時間に関連した出来事(29)であってもよい。

(28) *Süül-ijn üje-d ijldverlel-ijn čanartaj biznes ügüj*
end-G period-D/L production-G good quality business:N NEG
bol-ž.

become-PPST

“At the end of the 20th century good quality business for production has gone.” <ÖS: 1999.11.25.>

(29) *Yor n’ manaj teatr-ijn tüüx-e-n-d ijm olon angi-taj*
generally 1PL:G theater-G history-EP-n-D/L like this many part-POS
žüžig ügüj šüü.
play:N NEG CNF

“Generally in the history of our theater there is no play that consists of many scenes like this.” <ÖS: 2001.2.23.>

(28)では「20 世紀末」が「ビジネス」の存在する場を、(29)では「劇場の歴史」が「たくさんの幕からなる劇」の存在の場を提供している。存在の場所が明記されない例もある。

(30) *Getel xar-a-gd-a-x-güj yum bol baj-x-güj yum*
but see-EP-PSV-EP-NPS-NEG thing:N TOP be-NPS-NEG thing:Ø
ge-sen batlagaa ügüj.

say-PF evidence:N NEG

“But there is no evidence that something invisible does not exist.” <AE>

(30)の「証拠」の存在の場は、「この世界(*ene delxij*)」のように非特定の空間と考えられる。

所有文の否定を裏付けるデータは少ないが、(31)は所有否定を含んでいるように思われる。

- (31) *Erden ügüj bol ene nas-n-ij zovlon.*
 knowledge:N NEG TOP this+ age-n-G suffering:Ø
 “Not having knowledge is a suffering in this life.” <K&Ts: 331>

(31)の所有者は指定されていないが、「一般的な人」と解釈できる。所有物の「知識」は抽象的であり、所有者に付属する属性と考えられる。

(9b)-2)では、*ügüj* が *bij* の否定形に対応すると述べられているが、そのような交替例は見つけられなかった。

4 *baj-x-güj* (байхгүй)

baj-x-güj は、存在動詞 *baj* “to be, exist” に非過去形接尾辞 *-x* を介して、否定辞 *-güj* が付加した形式である。*-güj* は、Poppe(1970: 85)で語られているように、*ügüj* に遡ることができ、「動名詞を含む名詞として機能するすべての語の後ろに付加」する。*-x* のような動詞形は、この否定辞と一緒にになると、「否定形動詞(negative finite form)」としての働きをする。

baj-x-güj は、(9c)-1)の示すように、従来「既知事項」の存在否定、及び「元々の不在」を表わすと考えられてきた。これは、存在否定をその機能として持つということで、所有否定には触れられていない。

baj-x-güj 型存在否定文には、次の2つの文型がある。

- (32) a. [Dative-Locative NP/Adverb of Location/NP-Postposition: Location of Existence] + [Nominative NP: Entity] + *baj-x-güj*
 b. [Nominative NP: Entity] + [Dative-Locative NP/Adverb of Location/NP-Postposition: Location of Existence] + *baj-x-güj*

(32a)、(32b)に対応する例は、(33)、(34)である。

- (33) *Süxbaatar-ijn talbaj-n züün tal-d duur' büžg-ijn teatr*
 Süxbaatar-G square-G eastern side-D/L ballet-G theater:N
baj-x-güj bil üür?
 be-NPS-NEG is it not?
 “Isn’t there a ballet theater on the eastern side of the Süxbaatar square?”
 <S&B: 72>

- (34) *Minij düü šig öndör xün ene angi-d*
 1SG:G younger brother:Ø like tall person:N this+ class-D/L
baj-x-güj.
 be-NPS-NEG
 “There is nobody taller than my younger brother in this class.” <AE>

(33)では「バレエ劇場」の存在を確認する否定疑問文で、その存在を前提として尋ねている。すなわち、焦点となる対象の存在を否定して問う形を用いて、その存在の既知性を確認するのである。(34)には、「このクラス」に元々「私の弟」ほどの背丈のある者が存在しない事実を述べている。(33)と(34)を見る限りでは、(9c)-1)の説明は正しいように思われる。

(9c)-2)によると、***baj-x-güj*** は ***bij*** の否定形に対応する。実際に、両者が肯定と否定の間で交替する例を観察することができる。

- (35) a. *Bat-a-d olon sonin nom bij.*
 Bat-EP-D/L many interesting book:N existing
 “Bat has many interesting books.” <AE>
 b. *Bat-a-d olon sonin nom baj-x-güj.*
 Bat-EP-D/L many interesting book:N be-NPS-NEG
 “Bat doesn’t have many interesting books.” <AE>

(35a)は ***bij*** を用いた所有文である。一方、(35b)はそれに対応した否定文であるが、***bij*** のところに ***baj-x-güj*** が納まっている。これは、岡田(1989)、Yu(1991)の説明の裏付けとなる。

ところが、否定の *baj-x-güj* が *bij* ではなく、*baj-na* と交替する例が見出される。

(36) A: *Tanij nutag-t čin' üjldver olon baj-na ui?*
 2SG:G hometown-D/L 2PRC factory:N many be-PRE Q

“Are there many factories in your hometown?”

B: *Xödöö tom üjldver baj-x-güj.*

countryside:Ø big factory be-NPS-NEG

“There aren’t any big factories in the countryside.”

<フフバートル 1997: 61>

(37) *Manaj angi-d najman širee baj-x-güj, doloon širee*
 1PL:G class-D/L eight+ desk:N be-NPS-NEG seven+ desk:N

baj-na.

be-PRE

“There aren’t eight desks, but seven ones, in our class.” <AE>

(36A)では「たくさんの工場」の存在の有無を尋ねる文に *baj-na* が用いられている。それに答える(36B)では、「大きな工場」の存在を否定する文に *baj-x-güj* が登場する。(37)は前半節で「8つの机」の存在を否定した上で、後半節で「7つの机」に修正している。この文脈で *baj-na* と *baj-x-güj* が極性に関して対立する形を取っている。

(36)と(37)は、(9b)-1)、(9c)-2)で Tsevel(1966)、岡田(1989)、Yu(1991)が予測しなかった事実であるばかりか、(9a)-2)で岡田(1989)の挙げた *baj-na* と *alga* の極性を軸とした交替に対する反例ともなっている。

5 名詞語幹 + *-güj* (-гүй)

*-taj*⁴³⁾は名詞語幹に付いてそれが示す対象の存在や所有を表すが、橋本(2010: 123)で説明されているように、一般的に、所有に傾斜した接尾辞である。

(38) [Nominative NP: Possessor/Location of Existence] + [Noun Stem: Possessee/Entity]-*taj*^[3] /-*güj*

-taj^[3]を否定辞-*güj*に置き換えると、対応する否定文が得られる。

(39) a. *Bi gučin tögrög-tej.*

1SG:N thirty+ tugrig-POS

“I have 30 tugrigs.” <AE>

b. *Bi gučin tögrög-güj.*

1SG:N thirty+ tugrig-NEG

“I don’t have 30 tugrigs.” <AE>

(40) a. *Ene sangijn až axuj tavan xošuu mal-aas*

this+ state farm:N five+ muzzle:∅ livestock-ABL

gadna gaxaj, šuvuu olon-toj.

apart from pig:∅ chicken:∅ many-POS

“This state farm has, apart from the five kinds of livestock, a lot of pigs and chickens in it.” <AE>

b. *Ene sangijn až axuj tavan xošuu mal olon-güj.*

this+ state farm:N five+ muzzle:∅ livestock:∅ many-NEG

“This state farm doesn’t have a lot of five kinds of livestock in it.”

<AE>

(39a)は所有文、(39b)は対応する否定文である。同様に、(40a)は存在文、(40b)は対応する否定文である。どちらの文でも、肯定と否定の極性は、それぞれ-*taj*^[3]と-*güj*が担っている。

さらに、(41)の所有文否定形と(42)の存在文否定形を挙げておく。

(41) *Nadad taanar-t yar'-čix-maar sajxan yum-güj.*

1SG:D/L 2PL-D/L speak-CMP-DSR nice thing-NEG

“I don’t have anything nice to speak to you.” <Austin et al. 1997: 49>

(42) A: *Önöödör boroo or-o-x uu?*
 today rain:N fall-EP-NPS Q
 “Does it rain today?”

B: *Boroo or-o-x šinž-güj.*
 rain:N fall-EP-NPS sign-NEG
 “There isn’t a sign of rain.” <Skorodumova 2002: 94>

橋本(2010: 115-116)によれば、*-taj*^{d31}型所有文は *baj-*や *bij* と比較して、所有になれる animacy の領域が広く、[+human/+animate]NP ばかりでなく、[-animate]NP でも容認される。ただしその場合は、厳密な意味での所有というよりはむしろ所属・付属か属性所有を表すと考えられる。

(43) a. *Ene tol’ ter tolj-n-oos olon üg-tej.*
 this+ dictionary:N that+ dictionary-n-ABL many word-POS
 “This dictionary has a larger number of words on it than that dictionary.”

b. *Ter tol’ ene tolj-n-oos olon üg-güj.*
 that+ dictionary:N this+ dictionary-n-ABL many word-NEG
 “That dictionary has a smaller number of words on it than this dictionary.” <AE>

(44) a. *Ene ceceg sajn üner-tej.*
 this+ flower:N nice smell-POS
 “This flower has a nice smell.”

b. *Ene ceceg sajn üner-güj.*
 this+ flower:N nice smell-NEG
 “This flower doesn’t have a nice smell.” <AE>

(43a)は所属・付属の例で、2つの辞書を比較して一方の側の多数の語彙の掲載について述べている。(43b)は*-güj*を介して、同じ事実を否定の側から記述している。(44a)は属性の所有の例で、「花」に付随する「よい香り」の所有を表す。(44b)は対応する否定文である。

baj-na の否定形が名詞語幹+*-güj* に対応する場合がある。

(45) A: *Zaa, öör yum baj-na?*

OK other what:N be-PRE

“OK, is there anything else?”

B: *Öör yum-güj, bayartaj.*

Other what-NEG goodbye

“There is nothing else. Goodbye!” <G&B: 59>

(45A)の疑問文では、「何」は主格形 NP として存在の現在形動詞の前に現れている。その応答(45B)では、*yum baj-x-güj* ではなく、*yum* に否定辞の直接付加した *yum-güj* で否定を表している。

数は(38)ほどではないが、所有者が与位格形 NP をとる場合がある。

(46) [Dative-Locative NP: Possessor] + [Noun Stem: Possessee]-*güj*

(47) *Bi tüüinjg av'-ya gevč nad möngö-güj.*

1SG:N 3SG:ACC buy-VLNT but 1SG:D/L money-NEG

“I want to buy it, but I have no money.” <HA: 131>

(48) *Tand tamxi baj-na uu, nadad tamxi-güj*

2SG:D/L tobacco:N be-PRE Q 1SG:D/L tobacco-NEG

bol-čix-loo.

become-CMP-RPST

“Do you have some tobacco? I’ve run out of it.” <HA: 102>

たとえば、(47)の後半節は、(49)に置き換えられる。

(49) *Bi möngö-güj.*

1SG:N money-NEG

“I have no money.” <G&B: 51>

(49)は(38)で示された通常の**-güj** 否定形文で、主格形 NP が所有者を、**-güj** の付加する名詞語幹が所有物を表している。しかしながら実際には、1 人称主格形代名詞 *bi* の代わりに与位格形 *nad* が用いられている。この格形の所有者は(50)で見るように、*baj-x-güj* との相性がよい。

(50) *Nad mōngö baj-x-güj.*
 1SG:D/L money:N be-NPS-NEG
 “I don’t have money.” <AE>

(48)の前半節では、2 人称の与位格形代名詞 *tand* が所有者を、主格形 *tamxi* が所有物を表し、存在動詞現在形 *baj-na* が用いられている。後半節は「たばこ」の所有を否定するのだが、前半節の所有構文の文型を踏襲しつつも、*tamxi baj-x-güj* ではなく、名詞語幹に**-güj** の直接付加する形になっている。

6 *biš* (Биш)

biš は(9e)で説明されているように、「コンピュータの否定形」で、言語表示されていなくても、「対立するものが含意」されている。*biš* は典型的に存在の否定語であって、所有の否定の意味はない。*biš* の基本文型は、(51)である。

(51) [Dative-Locative NP/Zero Case NP: Location of Existence] + [Nominative NP: Entity] + *biš*

(52) *Xavar tari-x-güj bol namar xuraa-x-güj.*
 spring:Ø sow-NPS-NEG CND autumn:Ø harvest-NPS-NEG
Zun-ij sar zurgaa biš.
 summer-G month:N six:Ø NEG

“If (you) don’t sow seeds in spring, (you) don’t harvest any crops in autumn. Summer just has less than six months. (Do good things as soon as you can.)”<塩谷&プレブジャブ 2001: 127>

- (53) *Xümüüs-ijn dundaž naslalt boginos-o-x*
 people-G average life-expectancy:N get shorter-EP-NPS
xandlaga č baj-na. Gexdee süülijn žilüüd-e-d l
 trend:N even be-PRE but recent years-EP-D/L only
övčölölt ing-e-ž ogcom ös-sön xereg biš.
 disease:N do this-EP-IC abrupt increase-PF matter:N NEG
 “There is even a trend in which the average life-expectancy of people is getting shorter. Only in recent years, however, there is no fact that the number of diseases has increased abruptly.” <ZM: 2001.9.28.>

(52)と(53)では、存在の場所は「夏の日」、「最近」という広がりを持つ時間である。その中に、「6 カ月」、「病気の急速な増加」が存在する。

biš に特有の欠如物の含意は、確かに「夏以外の他の月の日数と較べて」とか、「最近以外の他の時期と較べて」といった含意を許しているように思われる。

(53)では、第 1 文の肯定存在が *baj-na* で示されるのに対して、第 2 文の否定存在が *biš* で表されている点から、*baj-na* と *biš* との間に交替現象があると指摘できるかもしれない。

biš が「対立するものの含意」を含まない例がある。*biš* が疑問辞 *üü* を伴うと、「～ではないだろうか」という存在の確認を表す。

- (54) *Ertxen xoyuulaa nuugd-a-x biš üü? gež*
 pretty soon both together hide-EP-NPS NEG Q QUT
zaraa örgös-öö xödöl-g-ö-v.
 hedgehog:N spine-REF move-CST-EP-PST
 “Isn’t there anything in which both of us (can) hide?” the hedgehog said and moved his spines. <U: 9>

- (55) *Ustg-a-san mal-aa yaa-x ve? Seg zem-eer*
 destroy-EP-PF cattle-REF do what-NPS Q carrion:∅ fault-INS

n' *erg-eed* *xaldvar* *tarx-a-x* *yum* *biš* *üü?*
 3PRC turn-PC infection:N widespread-EP-NPS thing:N NEG Q
 “What will (you) do for your destroyed cattle? Doesn’t there occur any
 widespread of infection caused by the carrion again?” <ZM: 2000.5.10.>

(54)は「身を隠すもの」の存在への期待は感じられるものの、それに対立するものの含意はない。そもそも、「身を隠すもの」と対立するもの、たとえば「身を現すもの」を考えること自体意味がない。(55)は「感染の広がり」への懸念は含意されるが、対立する事態としての「感染の縮小」の含みは積極的には見出せない。あくまでも、「感染の広がり」の有無を確認していると解釈される。

(54)と(55)はともに存在の場所は明示されていないが、発話時において話し手、及び聞き手のいる直示的な場所と考えられる。

biš には所有否定の例が見当たらない。その点で、典型的な存在否定語とすることができる。

7 結論

(9a) ～(9e)で挙げた従来の説明に即して、これまで考察した結果をまとめると、次のようになる。

(56)

	<i>alga</i>	<i>ügüj</i>	<i>baj-x-güj</i>	<i>-güj</i>	<i>biš</i>
文型数	2	1	2	2	1
存在場所/Animacy	o/-	o/-	o/-	o/-	o/-
所有者/Animacy	o/+		o/+	o/±	
既知性	o		o		
未知性	o				
対立物の含意					o/x
交替形	<i>baj-na</i>	o		o	o
	<i>bij</i>		NA	o	

文型の数は、*alga*、*baj-x-güj*、*-güj* が 2 つなのに対し、*ügüj* と *biš* は 1 つである。*-güj* が *ügüj* からの派生形であるにもかかわらず、文型の数に違いがある事実は興味深い。

存在文の否定はすべての要素が表示可能で、存在の場所は[-animate]NP である。これは、肯定形の存在文 *bij*、*baj-*、*-taj*^[3] の特徴を引き継いでいる(橋本 2010: 124)。

所有者の否定は、*alga*、*baj-x-güj*、*-güj* に限定される。*alga* は従来、存在の否定語と考えられてきたが、数は多くはないが、所有の否定も担うことができる。

所有者は一般に[+animate]NP、特に[+human]NP であり、*alga* と *baj-x-güj* はその制約に従っているが、名詞語幹に付く *-güj* は、[-animate]NP でも容認する。これは、肯定形所有文での *-taj*^[3] の特徴と一致するので(橋本 2010: 124)、(9d)の「*-taj*^[3] の否定形に対応する」という説明の裏付けとなっている。

alga は不在や非存在の既知性のみが言及されていたが、未知の場合でも使用可能である。*baj-x-güj* は、(9c)-1)の主張するように、不在の既知性を含意している。

biš が「対立するものの含意」を表わすのは、絶対的な事実ではない。そのような含意を持たない場合もあるのである。

肯定文との交替形に関しては、(9a)–(9e)の説明では不十分であることがわかった。まず、*baj-na* との交替は、*alga* だけではなく、*baj-x-güj*、*-güj*、*biš* でも可能である。これは、橋本(2010: 123)の「存在と所有の傾斜(91)」で明らかにしたように、*baj-*が存在文と所有文を広範囲に渡ってカバーできる事実と関連していると考えられる。

Tsevel(1966)は、*ügüj* は *bij* の否定の交替形であると述べているが、残念ながら、それを確認する例には出合えなかった。

bai-x-güj は、(9c)-2)で見るように、唯一 *bij* と否定極性で交替できる。その際、本来存在に傾斜しているはずの *bij* が、(35a)に見るように、所有文で現れていたり、*baj-na* が(36A)のように、存在文で用いられたりする。

本稿で目にし得たデータは数に限りがあるので、(56)の表の空白を埋めたり、記載事項に変更を迫る事実に行き当たる可能性があるだろう。そのような反証可能な条件を整えたことに加えて、従来の説明の不適切な部分や不十分な箇所を指摘できたことで、存在と所有の否定形式の研究に一定の貢献ができたのではないかと思う。

【グロスの省略記号】

ABL: Ablative (奪格形)、ACC: Accusative (対格形)、ASR: Assertive (断定形)、CMP: Completive (完成形)、CND: Conditional (条件形)、CNF: Confirmative (確認形)、CST: Causative (使役形)、D/L: Dative-Locative (与位格形)、DSR: Desirative (願望形)、EP: Epenthetic (挿入母音/子音)、G: Genitive (属格形)、HBT: Habitual (習慣形)、IC: Imperfective Coordinative (未完了等位形)、IMPF: Imperfective (未完了形)、INS: Instrumental (具格形)、INTERJ: Interjection (間投詞)、n: Hidden *n* (隠れた *n*)、N: Nominative (主格形)、NEG: Negative (否定形)、NP: Noun Phrase (名詞句)、NPS: Nonpast (非過去形)、PC: Perfective Coordinative (完了等位形)、PF: Perfective (完了形)、PL: Plural (複数形)、POS: Possessive (所有形)、PPST: Perfective Past (完了過去形)、PRE: Present (現在形)、PST: Past (過去形)、PSV: Passive (受動形)、Q: Question (疑問辞)、QUT: Quotative (引用辞)、REF: Reflexive-Possessive (再帰所有形)、RPST: Recent Past (近過去形)、TOP: Topic

Marker (トピック標示)、VLNT: Voluntative (意志形)、1SG: the First Person Singular (1 人称単数形)、1PL: the First Person Plural (1 人称複数形)、2SG: the Second Person Singular (2 人称単数形)、3SG: the Third Person Singular (3 人称単数形)、3PL: the Third Person Plural (3 人称複数形)、2PRC: the Second Person Possessive Proclitic (2 人称所有後接語)、3PRC: the Third Person Possessive Proclitic (3 人称所有後接語)、∅: Zero Case Form (ゼロ格形)、+: Attributive Marker (修飾標示)、.: Inflection Marker (屈折標示)

【引用文献の省略記号】

AE: Attested Example、CD: Hangin (1970)、G&B: Gaunt and Bayarmandakh (2004)、HA: Hangin (1997)、K&Ts: Kullmann and Tserenpil (1996)、L: Luvsanzav et al. (1976)、ÖS: Ödriin Sonin (Online Newspaper)、S&B: Sanders and Bat-Ireedüi (1999)、U: Šarav et al. (1978)、ZM: Zuuniy Medee (Online Newspaper)

【参考文献】

- Austin, William M., Hangin John G. and Peter M. Onon (1997) *Mongol reader*. [reprinted]. Richmond: Curzon Press Ltd.
- Gaunt, John and L. Bayarmandakh (2004) *Modern Mongolian: A course-book*. London and New York: Routledge Curzon.
- Hangin, John G (1970) *A concise English-Mongolian dictionary*. Bloomington: Indiana University.
- _____ (1997) *Intermediate Mongolian*. [reprinted] Richmond: Curzon Press Ltd.
- 橋本邦彦 (2010) 「存在と所有の間—モンゴル語の存在文と所有文の意味論—」『北海道言語文化研究』8: 105-127.
- フフバートル (1993) 『モンゴル語基礎文法』たおフォーラム
- _____ (1997) 『続モンゴル語基礎文法』インターブックス

- Kullmann, Rita and D. Tserenpil (1996) *Mongolian grammar*. Hong Kong: Jenco Ltd.
- Luvsandendeve, A. and Ts. Tsegendamba (eds.) (2001) *Bol'šoj akademičeskij Mongol'sko-Russkij slovar'*, Tom I and III. Moskva: Academia.
- Luvsanzhav, Čoj (ed.) (1976) *Mongol xel bičig*. BNMAU Sajd Nariyn Zövlölijn Ulsiyn Deed, Tugaj Dund, Texnik Mergežlijn Bolovsroliyn Xorooniy Xevlel.
- 岡田和行 (編訳) (1989) 『モンゴル語教科書 (外国人向け)』東京外国語大学語学教育研究協議会
- 小沢重男 (1994) 『現代モンゴル語辞典 改訂増補版』大学書林
- Poppe, Nikolaus (1951) *Khalkha-Mongolische Grammatik*. Wiesbaden: Franz Steiner Verlag GMBH.
- _____ (1970) *Mongolian language handbook*. Washington D.C.: Center for Applied Linguistics.
- Sanders, Alan K. and Jantsangiin Bat-Ireedüi (1999) *Colloquial Mongolian: The complete course for beginners*. London/New York: Routledge.
- Šarav, C. et al. (1978) *Unšix bičig*. Ulaanbaatar: Ardiyn Bolovsroliyn Yaamniy Xevlel.
- Skorodumova, L. G. (2002) *Učebnik Mongol'skogo yazyka*. Moskva: Muravej.
- 塩谷茂樹 and E. プレブジャブ (2001) 『初級モンゴル語』大学書林
- Street, John C. (1997) *Khalkha structure*. [reprinted] Richmond: Curzon Press Ltd.
- Tsevel, Ya (ed.) (1966) *Mongol xelnij tovč tajlbar tol'*. Ulaanbaatar: Ulsiyn Xevlelijn Xereg Erxlex Xoroo.
- Yu, Wonsoo (1991) *A study of Mongolian negation*. Doctoral dissertation. Ann Arbor: U.M.I Dissertation Information Service.

The negation of existential sentences and possessive sentences in Mongolian

Kunihiko HASHIMOTO

The purpose of this paper is to analyze several negative forms of existential and possessive sentences in Mongolian (the Khalkha dialect) and then elucidate their mutual relationships in meaning/function. The Mongolian language has five forms which express negation: *alga*, *ügüj*, *baj-x-güj*, *-güj* and *biš*. Each of them has common features to sentences of both existence and possession. The previous studies haven't dealt with the following problems in a comprehensive way: Are there any factors which distinguish the existence negation from the possession one although they use the same forms?; If yes, what are the factors? Besides that, most of the studies haven't sufficiently examined the implications of given/new information included in the forms and the adequacy of the alternation of every two forms in the affirmative vs. the negative. In the paper, we think about the negation of existence and possession from a semantic viewpoint and give the above problems adequate solutions, showing the cline of functions in the negative forms.

Division of Humanities and Culture

Muroran Institute of Technology

27-1 Mizumoto, Muroran, Hokkaido 050-8585, Japan

E-mail: 92hashimot@gmail.com